

# 谷口裕和の会

平成十六年三月二十八日(日)

午後二時半開場 / 三時開演

南青山 鎌仙会能楽堂

入場券 四、〇〇〇円

(全席自由)

一、常磐津 山姥  
大河原一郎扇面

一、常磐津 松廼羽衣  
大河原一郎扇面

一、常磐津 三ツ面子守

## ■出演者

谷口裕和

村井ゆかり

## ■演奏出演者

常磐津二三太夫

常磐津菊与志郎

鳴物囃子連中  
ほか

## ■制作

オフィス ヴイスコンティ

前売券切符取扱所  
チケットぴあ  
0750(02)9988  
(Pコード3521294)  
オフィスヴィスコンティ  
03(3836)5444



村井ゆかり



谷口裕和

### 「山姥」 (やまんば)

四季とりどりに姿を変える深山の風景、そこに秘められた神秘の力を司る山の精霊は齢を重ねた老女となつて各地に山姥の伝説が生まれました。その伝説は能「山姥」となり、浄瑠璃の世界では坂田金時の母となり、歌舞伎の世界でその前身を京の遊女八重桐と姿を変えてきました。本曲は能の詞章を下敷きに、歌舞伎舞踊の大曲『薪荷雪間の市川』で、山姥が「山めぐり」を一人舞う見せ場を独立させた作品です。能がかりの格を重んじた舞、前身が遊女であった色香を秘めた踊り、山の精霊である力強さ奥深さなど、さまざまな要素をその表現に求められる作品です。

### 「松廻羽衣」 (まつのはごろも)

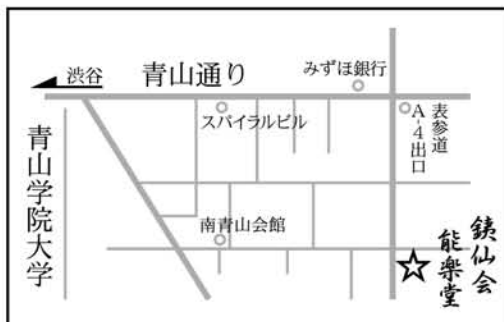
空を舞う白鳥の姿から天女の伝説が生まれたとも言います。本曲は能の「羽衣」を舞踊化した作品です。三保の松原で、天女の掛け忘れた羽衣を漁師の伯了が見つつけ持ち帰ろうとしたところを、探しにきた天女が返してほしいと頼みます。伯了が返すのを拒むと天女は悲嘆にくれますが、それを哀れに思った伯了が羽衣を返すと、天女は羽衣を着けて「東遊」の舞を舞いながら天上へ帰るといふ内容です。地上から見送る伯了の視線から、鞆鼓を打ち鳴らし空高く高く美しく舞いながら天女が去っていく、その空間の広がりを感じていただける幻想的な舞台をご堪能ください。

### 「三ツ面子守」 (みつめんこもり)

本曲は子守の姿を舞踊化した市井風俗舞踊の佳品です。三つの面をつけた笹を手にした子守が、子どもを寝かせた合間に一人遊びに興じる中で、笹につけたおかめ、恵比寿、ひよつこの面をかぶってそれぞれを演じ分けて踊ります。ませた田舎娘のかわいらしさや、遊びたい盛りを仕事に追われる哀感がユーモアをもつて描かれています。眼目となる常磐津の浄瑠璃の台詞にのせての芝居がかつた三面をつかつての踊り分け、素踊りで見せる子守娘の風態と、踊り手の技量が問われる今回の舞台です。

初のリサイクルには変化に富んだ意欲的な作品が並べられました。素踊りによる、三種三様の異なる色合いをどうぞお楽しみください。

題字 川邊 りえこ  
写真 木越 由美子



東京都港区青山四の二十一の二十九  
鑓仙会能楽堂  
地下鉄 表参道  
A-4出口より徒歩三分

  
<http://www.visconti.jp>